

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	弘前大清水学園		
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年11月11日		～ 2025年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 30
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チームで連携して支援を行う事ができている。	クラス単位で子どもの姿や活動内容の打ち合わせや振り返り等、職員間で共有できるように時間を見つけて話し合いを行っている。 勤務時間の違う職員に対しても個別に声をかけたり、申し送りノートを見てもらい把握に努めている。	バス添乗業務の職員もいるため、送迎バスの車内の様子の共有について、より確実に利用児童の状況が把握できるよう安全運転会議への参加、口頭での連絡の他、申し送りノートも活用しながら運転手や添乗員と支援にあたる職員が連携し対応できるように努めます。
2	地域の保育園と交流ができる。 併行利用している園や医療機関にも出向き、情報共有をし相互理解のもと支援をすすめている。	・同法人の子ども園が敷地内にあるため、月1回お互いの施設を行き来し、一緒に活動するなど交流の機会を持っている。 ・保育園等との併行利用が増えているため、電話連絡や年1回以上の訪問を実施し情報共有を図っている。	子ども園との交流はインクルーシブ活動と位置づけ、来年度も取り組んで参ります。内容等は子ども園と一緒に考えながら子ども達が「一緒に遊んで楽しい」「一緒にやってみよう」という気持ちを育てて参ります。 併行通園先との情報交換も継続して取り組みます。
3	子ども・保護者・担当者の三者の個別指導を実施し、子どもの発達状況を確認し共有しながら支援を進めている。	全園児を対象に月1回、三者の個別指導を実施している。個別指導では普段活動で取り組んでいる事を保護者と一緒に確認し子どもの姿を共有している。また、相談の場にもなっているためその都度対応するよう努めている。	引き続き三者の個別指導は継続し、家庭での様子、事業所での様子をお互いに確認・共有しながら日々の支援に活かして参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい同士の交流の場がほとんど無い。	・行事では利用児童とご家族の時間を共有し過ごしてほしいという考えから、きょうだい参加は控えていた。 ・敷地内の施設を対象にした「おおしみず祭り」の開催が今年は、敷地内の大規模工事ため開催出来なかった。	ご家族が参加できる「おおしみず祭り」や「音楽鑑賞会」などは継続して開催しながら、ごきょうだいも参加できる行事を少しずつ増やす方向で検討してまいります。
2	事業継続計画を含めた非常災害時の訓練の機会が少ない。	・避難訓練は毎月実施しているが、事業継続の観点を考えて訓練は、敷地内で大規模な工事があったため今年は十分にできなかった。	事業継続計画を職員に周知し、訓練を実施して参ります。また、ご家族に対してもご理解とご協力頂けるよう説明の機会と訓練への参加を促して参ります。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 弘前大清水学園

公表日 2026年 2月 1日

利用児童数 33

回収数 32

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31	1			・敷地内工事のため外遊びが不十分だったように思う。 ・活動するスペースが広くのびのびと活動することができていると思う。	3月で工事は終了しますので、来年度は園庭や芝生での遊びのほか、散歩や近くの公園を利用して戸外での活動も充実させてまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	30	2			・クラス担当表が4月にしか出ないため、年度途中の職員数についてはわからない。	・年度途中の卒入園児や新採用の職員についてはメールにてその都度お知らせしておりますのでご確認頂けますと有難いです。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	1	1	1	・特性に応じて対応していると感じる。 ・楽しく遊べるスペースや色々なことができる。	園々の特性に合わせてわかりやすく生活しやすい環境となれるように今後も向上に努めてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30	2				清潔で心地よい空間であるように環境整備や清掃はしておりますが再度丁寧に整備点検してまいります。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	2		1	先生方が愛情を持って扱ってくれているのがわかり安心している。性格なども十分に理解して接してくれている。	クラス職員を始め、関わる職員全員がお子さんに関する情報や日々の状態を常に共有しております。様々な職種スタッフで複数の視点で支援できるよう対応してまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28	1		3		支援プログラムは、年度初めの保護者説明会にてご説明させて頂きました。またホームページにも掲載しております。支援プログラムを元に支援計画に反映させて日々の支援に繋げて参ります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	32					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30	2			・月1回の個別支援でその姿が見られる。 ・できる事が進んでいる。	計画に沿った支援が進められるよう半年に1回、保護者の方と振り返りを行う他、毎月の様子支援計画に沿って記録しております。今後も計画に沿った支援を行うよう努めて参ります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	2		1	毎回プログラムが違い工夫が見られる。	週の中で療育活動の他、社会体験等の園外活動や季節の行事などねらいに沿って様々な経験が出来るよう計画し実施しています。また、継続して取り組む必要性のあるプログラムもあるため、保護者の方にご理解頂けるよう周知を図りたいと思います。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	29	2		1	隣接する子ども園と交流している。	毎月、インクルーシブ活動として敷地内にある大清水藤子ども園とお互いの施設を行き来して交流を図っております。来年度も継続して参ります。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30	2				契約時に説明しておりますが、今後もわかりやすい説明を心がけてまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	30	2			ペアレントトレーニングはもう少し回数が増えなかったり、その回数ごとの出席が参加しやすいと思う。	来年度もペアレントトレーニングを始めとした保護者勉強会(就学の流れ、就学開始体験、放課後等デイ、子育てなど)を企画・実施いたします。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	31	1			連絡ノートや個別指導等で情報交換を行いながら共通理解を図ることができている	月1回の個別指導や面談、連絡帳等での日々のやりとりは今後も継続し、お子さんに関して共通理解を図ることができるよう努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	1				今後も月1回以上の個別面談を継続して行いますがこれに限らず、日程の調整や相談がある時は対応いたしますのでご連絡なく申し出て下さい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	3		3	職員の方がいつも温かく共感的に関わって下さっている。	保護者の方のご意向とお子さんの姿を察らし合いながらより良い育ちのサポートができるよう努めてまいります。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	6	4	6	・保護者の交流の機会が多くあり良いと思う。 ・今後きょうだい向けのイベントが開催されることがあれば参加したい。 ・家族支援は保護者懇談会等で機会があったが、満足などきょうだいを連れて参加できる行事がもう少し増えるといいと思う。	来年度は、きょうだい交流したり参加できる行事等を検討いたします。 育成会(保護者会)に関しては、保護者の方の横の繋がりが持つ貴重な機会ですので、育成会の活動がスムーズ行われるよう学園としても出来る限り協力してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	29	3			月1回の面談以外に、随時ご相談をお受けできるよう対応しております。いつでもお声がけください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	3		1	利用しているお子さまには特性に合わせ、その子がわかる方法で伝えるよう配慮しております。保護者の方に対してはわかりやすく伝えることを心がけ、伝える内容によっては対面、電話連絡、連絡簿で対応しております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	30	1		1	活動の様子や学園だより（メール）や大清水だより（用紙）でお知らせしています。行事の変更や感染症状況についてはメールでお知らせしています。サービス評価は法人のホームページ及び園内に掲示しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	1			個人情報については年度初めに保護者の方にアンケートを実施し管理しております。取り扱いについては引き続き徹底して取り組んでまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30	1		1	各マニュアルは策定しておりますが保護者の方への周知については、年度始めの保護者説明会の場で周知いたします。今年度は感染症対応、防犯についての訓練は実施できましたが、他の訓練についても実施に向けて取り組んでまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	1		2	お子さんの安全対策として毎月1回の防災訓練、不審者対応訓練を実施しております。来年度も継続して実施してまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	1		3	安全計画は策定し、職員間で共有されております。保護者の方へは年度初めの説明会や契約時に説明できるよう周知に努めます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28		1	3	怪我等や事故等に関しては保護者の方には電話連絡をし状況を説明しております。今後も速やかに連絡し状況伝達できるよう努めてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29	1		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「明日学園行く？」と嬉しそうに聞きます。</li> <li>・毎日楽しく通うことができています。</li> </ul>
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由はわからないが行きたがらない事が多い</li> <li>・とても楽しく通っている。</li> <li>・毎日「明日は学園？」と確認されて「そうだ」と答えると飛び跳ねて喜んでいました。</li> </ul>
	29	事業所の支援に満足していますか。	30	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足している。</li> <li>・大変満足しています。ここまで成長できたのは学園に通えたからだと思っています。</li> </ul>

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
弘前大清水学園		2026年 2月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	30		・今年度は3クラス体制のため、クラス内での活動は少し狭いと感じたが、活動に合わせて廊下やホールを使用して工夫しながら過ごせている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	30		・利用児の特性を踏まえて各クラスの職員数が配慮されている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	30		・子どもの刺激となる物が少ない環境。また物品を収納するスペースがあり、すぐに片付けられる。	子どもがクールダウンできる部屋はありますが壁や床にマットやクッション等を置き、さらに環境を整えられるよう検討します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	29	1	・毎日の清掃と消毒で清潔に使うことが出来ている。 ・廊下でも活動できる広さがあり、階段も子どもに合わせた高さで良い。	引き続きこまめな換気や丁寧な清掃を心掛けていきます。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	29	1	・クールダウン等が必要であれば個別で対応できる場所がある。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	28	2	・全体行事やクラス活動に関しては常に意識して話し合い実行に繋がっている。業務によっては時間の確保が難しく十分ではない。	クラス毎や各係だけではなく全体で共有し進められるよう引き続き取り組んでいきます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	29	1	・評価表をまとめて職員間で共有し、改善に向けた話し合いを実施している。	保護者の評価表を基に、職員で検討し改善できるものは早急に対応して参ります。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	27	3	・全職員を対象に管理者との面談等、意見を発信する場がある。 ・意見を伝える機会があり、内容によって反映出来ているものと、時間をかけて検討し改善に向けているものがある。	意見を聞く機会は設けながら業務の見直し等に繋がってきたいと思っています。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	23	7	・定期的な外部評価も必要だと思う。 ・第三者委員会は存在するが評価は実施されていない。	現時点で第三者による外部評価は実施していないため外部評価を検討します。保護者と職員の評価には対応し業務改善に取り組んでおります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	30		・定期的に行われる園内研修に非常勤職員も受講する機会があり学びになっている。 ・職員の資質向上または支援で実践していけるような内容が多くありがたい。	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	30		昨年度から作成され職員と保護者にも周知し、ホームページにて掲載されている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	30		・子ども一人ひとりの課題を明確にし作成している。 ・年2回、保護者と一緒に評価・見直しをしている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	29	1	クラス職員と児発管が参加する策定会議で検討されクラスでの様子や保護者の意向も共有しながら作成している。	引き続き職員の共通理解のもと進めて参ります。
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	30		毎月のクラス会議や月ごとの支援記録で支援計画内容に対する支援内容や、子どもの様子を記録し状況確認を行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	29	1	S-M生活能力検査や感覚プロフィール等標準化されたアセスメントは心理師に評価してもらい、支援に活かしている。	子どもの状況を適切にアセスメントし、アセスメントツールを使用しながら客観的な分析を基に支援に繋がられるよう取り組みます。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	30			

援  
の  
提  
供

17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	30		クラスや全体での取り組み（方向性）を確認しながら立てている。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30		・事前に活動のねらいを共有し、ねらいに沿った活動の計画を立てるようにしている。 ・「運動遊び」では、子どもの状況に合わせて毎回内容を変えている。	今後も様々な活動や分野に触れる機会を作るために運動、社会性、感覚、音楽リズムなどを盛り込んで工夫します。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	30		年齢や子どもの状況を把握しながら個別で取り組む活動、小集団で経験する活動等を意識し取り組んでいる。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	28	2	朝礼後、各クラスで1日の流れや体制を確認している。バス当番や勤務時間が遅い職員に対しては、申し送りやノートを見て共有している。	事前の週計画の申し送りや、朝のミーティングでの情報を各職員が意識的に捉え、クラス間での情報共有を徹底します。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	29	1	午睡時や降園後に振り返りを行い、翌日に活かしている。子どもの対応の振り返りは頻繁に行っている。	気づいたことや児童への支援を振り返り、時間を設け情報共有を行い次の支援へ繋げられるよう取り組んでおります。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	30		毎日の療育記録、月に1度の支援記録をとっている。年4回ケース検討会を開催し支援について職員間で検討・共有している。	
23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	29	1	保護者とその都度子どもの姿を共有している。	支援計画は半年に1回保護者と面談し、見直しを行っております。

関  
係  
機  
関  
や  
保  
護  
者  
と  
の  
連  
携

24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	28	2	関係機関との会議にはクラス担当の他、主任や児童発達の2名で参加している。	引き続き子どもの状況を把握している職員が会議に参加するよう努めます。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	29	1	年1回以上は関係機関（主に医療と保育）と情報共有の場を設定し連携し、支援を行っている。	地域の保健・医療・障がい福祉・保育・教育等の関係機関と連携をとり支援を進めて参ります。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	28	2	・年1回の訪問での情報交換の他に必要に応じて電話等でも情報共有している。 ・就学先によっては地域移行を進めている。 ・情報交換の中で個別支援計画も説明し、どのような目標で支援を行っているか、また子どもの姿を共有し、学園・保育園とで共にできる支援等を確認している。	今後も併行先や移行先に定期的に訪問しながら当園での併行通園や移行支援への取り組み内容など理解して頂けるよう連携をとりながら取り組んで参ります。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	29	1	就学先の職員が園の様子見学を行い情報共有を図っている。	現在も実施されている通り、新しい環境にお子さんがスムーズに移行できるよう、支援内容の情報共有を行い相互理解を図るよう努めて参ります。
28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	23	7	・弘前市と市内の発達支援センターや発達支援事業所と協働で親子広場や保育園等の巡回相談を行っている。	弘前市の発達支援事業に市内の児童発達支援センターや児童発達支援事業所が協働で携わっております。また、市の自立支援協議会主催の児童発達支援管理責任者等連絡会に参加しております。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	24	6	弘前大学作業療法学科の先生にもビジョントレーニング等で指導と助言を頂いている。	専門の先生から活動に対し助言及び支援に対してのフィードバックをして頂き日々の支援に活かしております。
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23	7		管理者が自立支援協議会子ども部会のメンバーのため、会議開催時は参加しております。
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	30		同法人の弘前大清水藤子ども園とインクルーシブ活動で定期的な交流できている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	30		連絡帳、個別指導、面談の他にも必要に応じて電話等で伝えるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	30		毎年、ペアレントトレーニングを始めとした保護者向けの勉強会を企画し、保護者に参加を呼びかけ実施している。また、就学や福祉サービス等についても情報提供している。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	29	1	契約時に運営規定、利用者負担等についてはご説明しております。毎年春に保護者説明会を開き、支援プログラム等の利用説明を行っている。	

保護者への説明等

36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	30		作成前に保護者と面談しご意向を確認している。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	30		保護者と対面で説明し、保護者のご意向と子どもの姿に合っているか確認し同意を得ている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	30		相談内容や保護者面談での内容をクラス職員、主任・児発管とも共有し適切な対応を心掛けている。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	29	1	きょうだい同士の交流の場は設けていないが、クラスレク、クラス懇談会等で保護者間の交流の機会は設けている。	保護者に向けた勉強会の他、クラス行事や懇談会、行事等で保護者同士の横の繋がりを支援するための機会を設けるように努めます。
40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	30			
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	30			SNSの活用については個人情報の取り扱いを考えると難しいがホームページの充実に向けて検討して参ります。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	29	1	取扱いには十分気をつけている。	保護者のご意向等も確認しながら今後も個人情報の取り扱いには気を付けてまいります。
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	30		言葉にジェスチャーをつけて伝えるなど一人ひとりに合った方法でコミュニケーションをとっている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	28	2	・5月に音楽鑑賞会を開催した。 ・今年度は敷地内の大規模な工事があったため、「おおしみず祭り」の開催が出来なかった。	今後も地域の方に施設を開放し地域貢献また、施設への理解に向けて進めて参ります。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	28	2	マニュアルの見直しをしている。全てではないが訓練を実施している。	各マニュアルについて、職員と保護者の方が周知のもと訓練に参加できるよう進めていきます。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25	5	・計画の策定は行っているが、訓練の実施はできていない。 ・避難訓練は毎月実施している。	事業継続計画についても、職員とご家族に周知し、訓練の実施に票けて参ります。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	30		・入園時に看護師と面談した情報を職員間で共有できている。また入園後もその都度共有されている。	
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	29	1	・看護師・栄養士と共に職員間で共有し、保護者から聞き取りした対応をまとめ声を掛け合って対応している。	・今年度指示書が必要は児童はいませんが、全ての利用児に未採取食品の調査を行い、食事提供の際に栄養士・看護師・職員で確認して提供しております。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	30			
50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	28	2	・ご家族への周知に関しては来年度に向けて準備をしている。	保護者の方にもわかりやすく説明し、協力頂けるよう努めます。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	30			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	29	1	虐待防止においては園内研修の他、毎月の会場で必ず取り上げて確認している。	今後も引き続き、研修を行い対応に努めます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	30		保護者に同意を得た後に、子どもに説明して行っている。支援計画に記載している。	

非常時等の対応